

令和6年度 自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
Ⅰ.理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	『この場所(町)で穏やかに共に生き「私の人生よかった」の笑顔を尽くします』を理念に認知症ケアの実践に努めている。個々のネームタグの裏に理念を印字し、いつでも見て唱和できるようにした。			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	認知症予防啓発活動の一環として地域包括支援センターと協働し、地区の憩いのついででミュージック・ケアを展開(実績3回)。わかたけ班として町内避難訓練(地震想定)に利用者と参加。地域の方と防災グッズや救護方法を体験し共に防災意識を高めた。	グループホームの役割(地域交流／認知予防／ケアに関する相談)を「出向く」「出掛ける」「招く」ことで果たしていく。今後も地域包括と協働しちくのついででミュージック・ケアを展開。又町内の老人会等と繋がれたら。民生委員の集まりでもつどいのような取り組みができれば。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	外部評価結果を踏まえた目標達成のための取り組みの進捗状況や新たな課題について話し合ったり、各委員会での検討内容を報告し意見等をサービス向上に活かしている。	第2回会議で、「小規模事業所における火災時の避難行動地域連携について」消防署員、区長を交えグループホーム火災の検証を基に、現状を踏まえた意見交換行い今後の訓練に活かす。		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	運営推進会議で、委員会での検討内容や対策、ケア現場の現状課題に対する取り組みについて伝え指導戴いている。又市のグループホーム連絡会に参加し、グループホームが抱える課題や取り組みについて市内事業所、市職員と情報共有し話し合う等、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市としては、福祉の現場の人材確保に重き置き介護施設等に人材確保に関してのアンケート実施実習生や職場体験を受け入れる事で福祉仕事を知って頂く良い手段。 市グループホーム連絡会主催の見学会参加(見学／受け入れ)課題を共有する事で、離職を少しでも減らしたい。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	虐待防止・身体拘束廃止委員会を毎月開催。日々のケアで身体拘束や虐待・不適切ケアはないか、又繋がりそうな事案について検討し、職員会議で周知。又運営推進会議にて報告。身体拘束廃止の課題と実践について研修受講し勉強会にて職員全員に周知した。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	委員会を基準で定められている回数以上に開催している。些細な事でも不適切なケアにならないか検討過程が会議の報告でも受け取れる。会義で不適切ケアは無いと報告受けており、職員間でもしっかり教育・周知されていると推察できる。入居者の接し方、ホーム内での本人の表情を見ながら身体拘束の不安を感じた事は一度もない。本人の満足度が一番大事です。

6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員は、ケアの振り返りを行い不適切ケアの事案を委員会で検討。職員会議にて検討内容を周知。自己点検シート・気づきのアンケートを実施・集計し現状把握。虐待防止の為の改善計画作成、取り組み実施、運営推進会議で報告。高齢者虐待について外部研修受講し勉強会にて職員全員に周知。運営推進会議で、「認知症の方のBPSDを予防する関わり方と対応」外部研修で学んだことをケアに活かしようとなったかを報告している。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	虐待に関する外部研修を積極的に受講している。職員のケアの現状把握にも努めており、改善計画まで作成している流れはとても良い。今後も継続していただきたい。常に入所者の思いを汲み取る努力をしていただいており、施設内で共通認識されている様子が伺える。利用者一人ひとりに合わせる事が大切ですので頑張ってください。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	成年後見制度についてオンライン研修等に参加し勉強会にて職員に周知している。入居者のみならず、在宅の高齢者の方を含め制度利用の必要性について話し合い学ぶ機会とした。			
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	契約時、本人や家族に不安や疑問点を訪ねながら契約書や重要事項説明書の説明をし、理解・納得図っている。解約時、契約に基づき、その決定過程を明確にして本人や家族に分かり易く説明し理解・納得戴いている。重要事項内容の変更の際には、事前に電話や面会時に口頭で説明し、書面にて変更内容に対しご理解の上同意戴いている。			
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々のケアの中で、又面会時や運営推進会議にて本人や家族の意見等を聞き運営に反映している。年1回家族向け満足度アンケート実施・集計し運営推進会議で報告。又ラポール委員会での利用者の意見も反映している。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	年に1回アンケートを7実施する事で会議に出席できない家族からの意見にも耳を傾けている。ご家族や地域の人の意見が聞けている。家族の意見や思いを発信できる機会がある事は良いことだと思う。家族様の意見は大切ですがあまり偏らないように。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日頃の活動を通じて職員の運営に関する意見等を聞き、月1回職員会議にて課題となる現場の声や意見を話し合い運営に反映できるよう努めている。法人内会議にて各施設・事業所状況、苦情や事故報告等を共有し、現場に持ち帰り話し合っている。			
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	委員会にて業務の見直しを繰り返し話し合い、まずは5S活動を徹底し業務効率や職員の意識向上を図り安全管理に努めている。本年12月介護記録ソフト導入、只今移行期間ではあるが、職員の負担軽減や処遇改善、利用者の安全及びケアの質の向上に努めている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	介護ソフト導入で事務負担が少しでも軽減できるようで良かった。利用者との関わりに多く時間を割けるようになったことは、職員のやりがいに繋がるのではないと思う。介護ソフト導入し、今まで手書きで作成していた介護記録の時間短縮が図れケアに余裕が生まれるのではと期待します。

12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々の職員のケア目標達成に必要な外部研修や勉強会（自己研鑽を含む）に参加。研修で学んだことを具体的にどのようにケアに活かし、どうなったかの事例を交え職員に周知している。		A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	外部研修も受けられる体制が整えられている。その研修をどう活かしていくか具体的に検討されている。しっかり取り組まれていると思います。職員の研修が成されている。色々介護も変わりますので個々に合わせる事について学んでください。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	福井県認知症高齢者グループホーム連絡協議会の研修を通じて交流を深め、又越前市グループホーム連絡会に参加し各事業所が抱える課題等を共有し見学会にも参加している。今後も参加し共にサービスの質の向上に努める。			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	㊟. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員は、本人がこれまで生きてこられた人生に思いを馳せ、心に寄り添い喜怒哀楽を共にし、日常生活でのいろいろな場面などで昔ながらの仕方や知恵や感性（人生観）を本人から学ぶなど支え合う関係を築いている。			
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	今年度も猛暑が続き外出の機会は少ないが、お花見や市内での思い出の場所や自宅近辺ヘドライプに出掛けている。面会において兄弟や県外の家族や愛犬、互いに元気に会えたこと喜ばれている。ご家族協力にてお墓参りに出掛けている。	次年度は、居室面会や、外出・外泊等が出来る体制を整える。利用者本人の状態や身体面等ご家族が理解し対応できるよう可能な限りサポートする。面会時や通院時に出掛ける事で対応の仕方など知る機会でもある。		

Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	担当職員は、センター方式をツールにアセスメントを行い、本人の思いや生活に対する意向・希望の把握に努め、他の職員と情報共有しながら可能な限り本人本位に添った認知症ケアの実践に努めている。入居時、ご家族に協力戴きセンター方式にて情報収集を行っている。			
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A. 充分にできている B. ほぼできている ㊟. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人・家族の意向を踏まえケアの在り方、主治医の意見含め話し合いプランに反映している。本人が分かり易く実現可能なプランになるよう心掛けている。	既存のサービスだけにとらわれず、外部サービスや地域資源など組み込む。状態変化に応じ見直しをする。	A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人、家族、主治医と密に連携を取り話し合いが出来ている。主治医とのしっかりとした連携体制がとれており、信頼関係も深い。本人にとってのベストを考えて貰っている。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ケアの記録に関して、12月より介護記録ソフトを導入。記録データの活用し情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしつつある。		A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員間の情報共有が出来ている。業務効率化を實踐して、情報共有をシステム化したことはとても良いことだと思う。介護ソフト導入により誰でも早く本人様の状況が分かり易くなり情報共有が図れていると思います。

19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A. 十分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	認知症啓発活動の一環として、地域包括支援センター職員と協働し、地区のいこいのつどいにてミュージック・ケアを展開(実績:3回)。地域の方にグループホームを広く知って戴く良い機会となった。次年度は健康広場でも同様に地域包括と協働し、グループホームとしての地域支援ができればと話し合っている段階です。	次年度は「出向く」「出掛ける」、「招く」 出向く:地域包括支援センター職員と協働し地区のいこいのつどいでミュージック・ケアを展開。 招く:ラボカフェに家族やボランティアを招く地域交流会開催。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A. 十分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	災害時や利用者失踪時には、法人内施設・事業所、市、警察、消防、区長、近隣住民と協力体制を図っている。感染予防を講じた上で美容師、介護サービス相談員、外部サービス(個別支援)、又10月より看護実習生受け入れている。	次年度より、面会を自室で行えるよう体制を整える。感染症流行時は今まで通り、中玄関での面会に切り替える等、メリハリをつけた対応ができるようにする。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	㊟. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人、家族の意向を確認、話し合いの上で納得した医療機関で受診できるよう支援。月2回協力医の訪問診療。又家族協力にて通院。医療機関との連携は密に行っている。			
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	㊟. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入院時、早期にホームで受け入れ可能な身体状態、ADL面の自立度を家族や医療機関に伝えている。医療機関の相談員を窓口の情報交換を行い、カンファレンスに参加。早期退院できるよう、退院後の留意点を含め多職種連携を図っている。		㊟. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入院した場合、回復目標を提示する事で退院時の対応がスムーズに行えている。再入居が出来ない利用者に対してのフォローもしていて、家族の不安を取り除く努力をしている。関係者間の連絡を密にし取り組んでいると感じた。医療機関との情報共有は適切に出来ていると思います。入院時の医療機関への情報提供、退院後の対応等しっかりとした連携体制を取っていただける事は家族の安心になる。他支援との連絡は本人にとって大切。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	㊟. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	重度化した場合、今後の支援について本人・家族の意向や要望を確認した上で、主治医と相談し、本人の状態や予後を含め事業所でできることをマニュアルに沿って個別支援している。又状態により退所となる場合も、医療機関や施設の相談員と情報共有し本人・家族の不安緩和に努めている。		㊟. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	看取りをしていない事を伝えるなど重度化した場合の支援について、事前に十分に説明している。家族からも不安がなくなったとの声が聞かれた。見取りに関する話題に接する事ができ、非常に参考になった。会義でも度々重度化した場合や終末期についてご家族に丁寧に説明している報告を受けて十分にできていると思う。終末期について、職員と主治医が専門的な視点で相談にのってもらい助言していただける事は何より心強い。

24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	夜間緊急時の連絡方法(手順)や急変時対応をマニュアルに沿っての確認を行っている 併設事業所の保健師の指導のもと感染症対策にてガウンテクニックの訓練を合同で実施している。			
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	R5. 10 月町内避難訓練(地震想定)に利用者と一緒に「わかたけ班」として参加。地域の方と防災グッズや救護方法を体験し共に防災意識を高めた。R6.11 月地域合同避難訓練(夜間想定)実施。施設の構造や避難経路、火災通報装置、非常用設備等の見学・説明行い協力強化を図った。緊急連絡訓練実施。	・日頃からご近所住人と交流を持つ事が大切。 ・火災通報装置や非常用設備等の設置場所や操作方法を誰もができるように。 ・緊急連絡の見直し。 ・職員の参集方法や災害時伝言ダイヤル活用	A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	地域の避難訓練に参加している。避難訓練で見つかった課題への対応を検討していただけるとな良い。訓練内容は実践的で良い。消防署より講師を招き避難訓練時の対応の講義を開催して積極的に取り組んでいる。究極の選択の実践の話が聞けて大変良かった。同種の施設や行政等と情報共有を行い、マニュアル等のアップデートをしていくと良い。災害はいつ起こるか分からないので毎日の行動を頑張って行ってください。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日頃の利用者との関わりの中での、言葉掛けや接し方など、接遇に関して注意すべき状況があれば、その時に職員に対し、リーダーや管理者が指導している。ケアの振り返り。		A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員会議などでケアの振り返りをしていた。本人を見ている中で不適切な接し方を感じた事は一度もない。利用者の方々の訴えが多く業務に追われて忙しい中、ついイライラしてしまう事があるかと思いますが、プロとして家族からも信頼を得ていますので頑張っていたきたいと思います。今も充分頑張っていると思いますが、プライバシーは1人の人として尊厳を守ってください。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々の利用者のペースを把握し、その人の生活スタイルや暮らしのこだわりを大切に合わせつつも生活の幅が広がるよう支援。(俳句を詠む、歌謡曲聞く・歌う、自由にホーム内散歩、スキンケア、新聞・テレビ情報時事ネタ会話、等々)			
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	購入した食材の検品や野菜の皮むきなど出来る事で食事作りに参加、茶碗洗い等片付けを職員と一緒にやっている。利用者主体のクッキング Day、嗜好調査の実施。		㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事の大切さを職員の方々が訴えている様子がとても印象的だった。少しでも美味しく食べてもらおうとする努力が伺えた。本人の状況に応じて適切に対応していただいております。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事量と水分量のデーター把握。体重は月1回測定し、主治医と相談の上状態に応じた食事形態、食べれない方には、栄養補助食品(個人)を取り入れる等支援している。法人内施設の栄養士の相談協力得ている。			

30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎食前うがい・手洗いの励行と毎食後の義歯洗浄と歯磨き等、ブラッシング指導し口腔内チェック行うなど傍で見守り支援している。口腔ケアの理解困難で拒否が強い方への対応に苦慮している現状もある。義歯の不具合や治療が必要時には、協力歯科と連携し治療に繋げている。年1回歯科検診にて指導載っている。		A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎日のブラッシング指導・口腔チェックを行い、口腔衛生の管理をしている。拒否が強い入居者への理解をどう得ていけるかが課題であると思うが、その方は年1回の歯科健診での確認はできているのか。指示が入らない状態の中で可能な範囲で衛生ケアをしていただいている。口腔ケアは介護支援者の助けがいるので大変ですが頑張ってください。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々の排泄パターンやその日の状態を把握し職員間で共有、パターンに合わせたトイレの声掛け・誘導・介助行っている。オムツ使用者が殆どだが日中はショーツに履き替える、又トイレの場所や仕方が分からない利用者にはその都度誘導しトイレ動作指示行う等個々に対応。水分量や食事、運動で便秘予防に努めている。		A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者それぞれの排泄パターンを把握し、そのパターンに合わせた介助を行っている。職員間で情報共有できている。難しい対応を頑張って取り組んでいると思います。ホームでの生活が継続できるよう本人の自立レベルを維持する努力をいただいていると感じている。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	㊟. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入浴は週4回。曜日や時間は本人の希望に添える様その時の心身の状態を見ながら努めている。入浴困難な方には職員二人対応にてシャワー浴や全身清拭含め状態に応じた保清と安全面に努めている。			
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	㊟. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々の睡眠パターンや不眠の要因を把握。夜眠れない利用者には、日中の活動や人との交流の場を設け、生活リズム作りを通して安眠対策に努めている。短時間の昼寝や入浴後の休息、又足腰を伸ばす時間を取り入れる等個々の状態に合わせて対応している。			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	㊟. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個別の看護記録に通院・往診結果を入力し薬剤情報を綴り職員全員が把握。服薬介助時の本人確認や服薬確認を徹底。服薬困難な場合、薬の形状を主治医に相談、粉碎、液体等、薬局薬剤師に飲ませ方や保管方法を相談している。薬の変更時は経過記録し、次回通院時に文章にて担当医に伝えている。薬一包化にて管理。		㊟. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員全員が把握できるような記録をしている。主治医とも密に連携が取れている。服薬管理は、安心して任せられる支援をいただいていると感じている。年をとるごとに薬が多くなることは大変ですね。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々の得意とすることを暮らしの役割とし、ラポール委員会を設け毎月利用者主体の委員会を開催し、「やってみたい事・頑張りたい事」等利用者の意見を反映した活動を決めている(クッキング	・毎週水曜日は、体を動かし楽しむ日と決めて対抗ゲームを楽しんでいる。		

				Day、ゲーム、作品作り、クラブ活動等)。今月の目標を決めホーム内に掲示。			
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている ● C. あまりできていない D. ほとんどできていない	天気の良い日やその時々希望に応じ、事業所周辺や近所を散歩。お花見や市内の思い出の場所、自宅付近ドライブに出掛けている。猛暑続きで出掛ける機会が少なかった。今年度より、家族協力のもと自宅や墓参り冠婚葬祭・家族行事に出掛けている。	次年度も、出来る範囲で外出行事を多く取り入れる。外出先で家族と合流参加もあり。又ボランティアや実習生等の協力など地域資源を活用する。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない ● D. ほとんどできていない	平成27年7月より、当事業所での現金の取り扱いはしない事と決まり個人の預り金はない。小口の範囲で外出の際の買い物や飲食楽しめる支援体制を取っている。			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている ● C. あまりできていない D. ほとんどできていない	県外の家族より、愛犬便りや絵手紙、電話はあるが、利用者自ら電話の利用や手紙のやり取りはない。希望があればそれに添えるよう支援している。毎年、家族宛てに年賀状作成し届けている。			
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 十分にできている ● B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	家庭的なぬくもりを大切に空間づくりを心掛けている。共用スペースに季節の花々や毎月の作品を飾り明るく温かな雰囲気作りに努めている。居間を無くし、フリースペースを設けた事で、歩行器での歩行訓練や車椅子で自由に自走、又広いスペースでゲームを楽しむ等、利用者の活動的な場面が増えた。	● A. 十分にできている ● B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない		コロナ以降ホーム内の状況ははっきり分らないが、大きな変化は感じられず、温かい雰囲気がある。
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)							
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	A. 十分にできている ● B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	口々に「何もしない、する事がない」のが一番苦痛との事。何か一つでも、自分の事で自分が出来る事を続けている。			
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 十分にできている ● B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人から、又面会時、家族や友人・知人から情報載っている。入居時、ご家族に協力戴きセンター方式(A1、B1、B2、B3シート)を活用し情報を得てケアに活かしている。			

42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎月健康面をお便りで伝えている。月2回訪問診療を受けている。家族協力にて他医療機関で定期受診し連携。利用者の状態変化にあわせ環境整備(手摺や衝撃吸収マット設置、簡易センサー活用等)。主治医や法人内の栄養士と相談しながら状態に合った食事形態で提供。食べられない時は栄養補助食品併用。		㊤. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の日々の様子を把握している。状態に合わせた環境整備を行い事故防止に努めている。 毎月届く写真入りお便りには本当に感謝している。主治医の訪問診療は、本人は自分の健康状態を話せないで家族にとって安心であり、ありがたい。段々できない事が多くなるので、家族と周りの人の支援が必要です。
43		本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています	A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	起床後の身だしなみ(整髪料で髪整える)化粧水、一人では困難になってきている為、職員が傍で見守り・声掛け、出来ないところは援助しながら継続に努めている。			
44	生活の継続性	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができています	A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	思い出のアルバム、ひ孫達の写真、馴染みの小物やバック、洋服、お化粧品や整髪剤、良く聞いていた歌謡曲(カセット、CD) 愛犬や家族からのお便り等。それらを見る、聞く、読み・書く等の場面や促し支援が必要となっている。		A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の馴染みの物や大切にしている物を家族から聞き取って持ってきてもらっていると思う。認知症が進んだ為、今は難しいと思うが、馴染みの歌など楽しめる時間が続くことを願っている。馴染みの物と執着する物との取り扱いは難しいと思いますが、ご本人が手元にあるだけで安心できるよう対応されているのは本当に良い事だと思う。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができています	A. 充分にできている B. ほぼできている ㊟. あまりできていない D. ほとんどできていない	今年度も猛暑が続き出掛ける機会は少ないが、散歩ドライブ等に希望に応じ出かけている。ご家族と一緒に公墓参りや実家での法要、葬儀に参る事が出来た。看護実習生と菊人形に、又年末にはご家族と自宅に帰る事が出来た。	今後も、家族と感染予防協力しながら外出の機会を多く持てるよう支援していく。次年度は、「招く」を緩和していく。自室での面会、地域資源(ボランティア、実習生、職場体等々)活用、ラポカフェに家族や地域の方をご招待する等。		
46		本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています	A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ラポール委員会にて利用者主体で月の活動を決め、クッキング Day、ラポカフェ、ゲーム等を楽しんでおり、その様子をお便りに写真を載せてご家族に送付している。			
47	本人が持つ力の活用	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができています	A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・歌好きの利用者が多く皆で歌を歌っている時 ・家族との面会や外出した時や散歩。 ・職員も含め皆と会話している時。俳句を詠む ・リハビリ(ボール遊び)、ゲームの日。 ・自分の事ができ一緒に喜んだ時。		A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	自己評価の記述を読むとおそらくできているのではないかと思います。ミュージック・ケアなど利用者が楽しんでいる話を会議で聞きました。お便りの写真や職員からの話から、楽しめる時間が持てている事を嬉しく思っている。会話の機会を増やす事が大切です。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができています	A. 充分にできている ㊟. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	近所を散歩した際に挨拶したり、頂いた花は玄関や食堂、居室に自ら飾っている。玄関ベンチに座り、「僕の散歩コース、この場所が落ち着く」と穏や	次年度は、町内の高齢者の方をお招きし地域交流会を開催(併設事業所合同)を予定しているが、会場まで来れない方への対応課題があるのも事実。交流会を企画したらチラシ等を作		

				かに話されるご近所の方とのひと時の交流があります。	成し会議の場や公民館など配って参加頂く等、出来る事から始めてみる。		
	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができる	A. 十分にできている ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入退所が続き、ケア現場も変わりつつあります。面会や外出等でのご家族との交流の機会も増えてきました。ですが認知症の方はいつも不安と隣り合わせです。そのことを念頭に少しでも不安が軽減し穏やかに過ごせるよう、ご家族や地域の方々と共に支え合うグループホームであるよう努めています。	・地域交流会にて歌声披露する。 ・地区の文化祭に作品展示が間に合わなかったが看護実習生と一緒に手がけた貼り絵作品「秋の紅葉」ホーム内を明るく彩っています。次年度こそ地区の人にも見て頂きたい文化祭に展示する。	A. 十分にできている ⓐ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者と職員の信頼関係が構築されていると感じた。来年度は地域との交流会にも力を入れ、是非地域交流会を開催していただきたい。ご家族の意見が聞け、利用者本人が安心して生活できている様子が伺える。ご利用者やご家族の為に取組まれていると思います。外部の方にも知ってもらう機会を積極的に作っていった欲しいと思います。ラポールに入所できた事に本当に感謝しています。今、穏やかな母の顔を見ると、職員さんや他の利用者の方に母の存在をしっかり受け入れて貰えている事が分かります。入所期間も長くなってきましたが、母の幸せな居場所（ホーム）だと実感しています。